

## 出雲インター線建設工事に伴う発掘調査の成果について

### 1 はじめに

島根県埋蔵文化財調査センター・出雲市文化財課では平成 17 年度より出雲インター線道路建設工事に伴う発掘調査を共同で実施している。

今年度は御崎谷遺跡、間谷東古墳の調査を行っており、そのうち間谷東古墳では礫床を伴う埋葬施設が検出された。

### 2 あみやひがし 間谷東古墳の概要

間谷東古墳は出雲市知井宮町に所在し、標高約 42m の尾根上に位置している。頂上部や丘陵部は攪乱や地すべりの影響を受けており、墳形は不明である。

調査の結果、頂上部の地山面から北北西を主軸とする埋葬施設を 1 基検出した。この埋葬施設は素掘りの土壌で礫床を有している。墓壇の規模は、長さ 4.8m、幅 1.0m、残存する深さは 0.3m で、この墓壇の底面に 5～10 cm 大の扁平な礫を長さ 4.5m、幅 0.5 m の範囲に敷いているものである。礫床の北端部分と、そこから約 1.0m 南側の位置では部分的に礫を厚く敷いており、墓壇内に組合せ式木棺を据え、礫を敷き詰めたものと推測される。礫は神戸川中下流域で多く見られる川原石である。

遺物は刀子とみられる鉄製品が 1 点出土し、主体部の覆土からは古墳時代前期末から中期初頭にかけての土師器が 1 点出土している。

埋葬施設の形態や出土遺物から判断すると、当古墳は古墳時代前期末から中期初頭頃のものと考えられる。

### 3 調査の意義

- (1) 出雲平野に存在する古墳時代前期から中期初頭の古墳としては、山地古墳、浅柄Ⅱ古墳や大寺古墳等数例が知られる程度であり、類例が少ない中、当該期の古墳の様相を知る上で新たな資料を得ることができ、貴重な発見となった。
- (2) 間谷東古墳の近隣に位置する山地古墳、浅柄Ⅱ古墳は埋葬主体に礫床もしくは礫層を採用しているが、当古墳も同様の埋葬形態であり、この形態が神西湖東岸周辺に分布する古墳の特徴を表わしている可能性も考えられる。

### 4 現地説明会

日 時 平成 18 年 11 月 19 日 (日) 午前 10 時より

集合場所 出雲市知井宮町地内 発掘現場プレハブ (別添地図参照)

その他 当日は御崎谷遺跡の遺物展示も行います。(雨天の場合は遺物展示のみ)